

よい論文とは？ おもしろい論文とは？

現在、数多くの看護研究論文が発表されています。論文発表の場が洋の東西を問わずさまざまに用意されている中、今後ますます多くの論文が産出されるものと思われます。その一方、「本当によい研究とはどういうものか」「おもしろい論文が少ない気がする」というような声が聞かれる現状もあり、論文の質に関する議論が一層活発になっていくことも予想されます。

では、「よい研究」「おもしろい論文」とは、どのようなものを指すのでしょうか。「よい」「おもしろい」を客観的な指標として示すことは困難ですが、多くの方が「この研究はよい、おもしろい」と声を揃える論文もあるはずで、そこにはきっと、共通する「よさ」「おもしろさ」があるのではないのでしょうか。それは、学会で表彰される論文かもしれませんし、また、荒削りながらも着想の独自性や結果の新しさなどの点で刮目に値する論文かもしれません。

本号では、そのような論文の「よさ」「おもしろさ」を探っていきたいと思います。まずは座談会にて、研究の現状を俯瞰しながら議論いただき、加えて、多くの看護研究者の方々から、ご自身の研究や、国内外の数多くの研究の中から印象に残ったもの、そして「私が考える」よい論文、おもしろい論文についてなど、さまざまな形でお考えを示していただきました。本特集タイトルでは「論文」と銘打っていますが、論文の前提にはいうまでもなく「研究」があり、論文の「よさ」「おもしろさ」とは、研究があってこそ考えられるものと思われます。このような認識に基づき、特集中の「論文」「研究」などの表現の違いはそのままとさせていただきます。

多様性の中から、共有できるものが浮き彫りになればと思います。それが、「よさ」「おもしろさ」のヒントになるかもしれません。

*執筆原稿は五十音順にて掲載しております。

企画：『看護研究』編集室